

札幌少年 ラグビースクール ルール説明会



2020年7月19日

・基本事項

立っている(On feet)：体の足以外のいずれの部分も、地面、または、地面の上にいるプレーヤーに支えられていない状態のプレーヤーのことをいう。

立っていない(Off feet)：体の足以外のいずれかの部分が地面、または、地面の上にいるプレーヤーに支えられている状態のプレーヤーのことをいう。

タックル(Tackle)：ボールキャリアーを捕まえ、そのプレーヤーを地面に倒す方法。

スクラム(Scrum)：通常、各チーム8名（中学生は5名、小学生は3名）のプレーヤーがフォーメーションを組んで互いにバインドして形成するセットピース。

ラック(Ruck)：各チームの1名、または、それ以上のプレーヤーが立ったままの状態、身体を密着させて、地上にあるボールの周囲に密集するプレーのフェーズをいう。

モール(Maul)：ボールキャリアーと両チームから最少1名ずつが参加して、互いに立ったままバインドしているプレーのことをいう。

ラインアウト (Lineout)：ラインアウトとは、各チームから最少2名ずつのプレーヤーがラインを形成し、タッチから投入されるボールをキャッチしようとして構えるセットピースのこと。

・得点の方法と点数

- a. トライ 5点
- b. コンバージョン 2点
- c. ペナルティトライ 7点
- d. ペナルティゴール 3点 ドロップゴール 3点

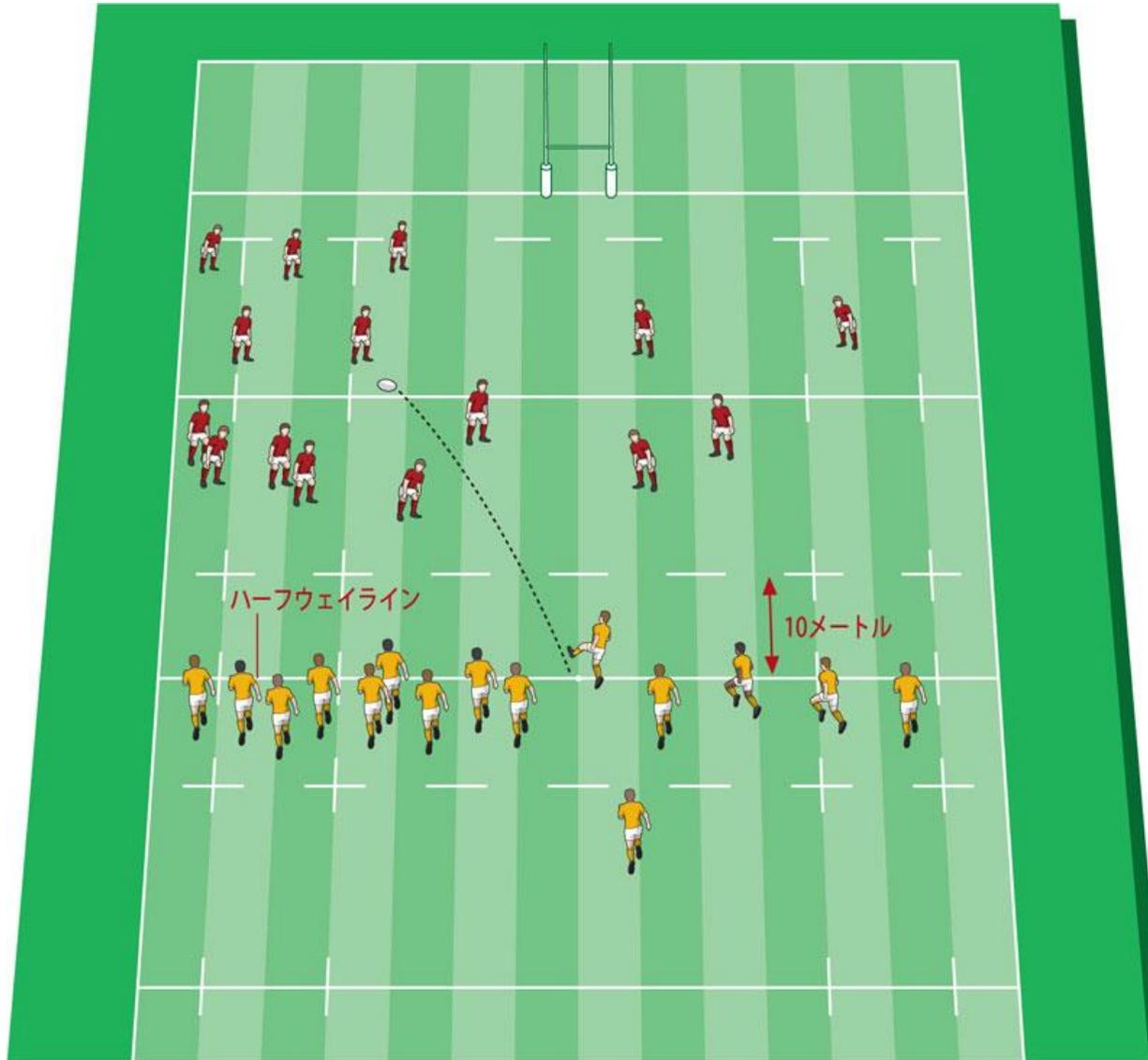
・反則の種類 ラグビーには大きく分けて3種類の反則があります。

重：ペナルティキック (ゴール、タッチキック、タップキック、スクラム)

中：フリーキック (タッチキック、タップキック、スクラム)

軽：スクラムで再開 (スクラム)

・ 試合開始



キックオフは、ハーフウェイライン上の中央、または、その後方から行われる。罰：キックした側ではない方のチームに、キックのやり直し、または、スクラムの選択肢が与えられる。

試合開始時にキックオフを行った相手側のチームが、後半を開始する。

一方のチームが得点した後、相手側は、ハーフウェイライン上の中央、または、その後方から行われる。罰：キックした側ではない方のチームに、キックのやり直し、または、スクラムの選択肢が与えられる。

ボールがキックされたら：

キッカーの味方は、ボールの後方になくなくてはならない。罰：スクラム

相手側のプレイヤーは、10メートル（小学生は5 m）ライン上、または、その後方になくなくてはならない。罰：キックのやり直し

ボールは、10メートルラインに（小学生は5 m）達しなくてはならない。罰：キックした側ではない方のチームに、キックのやり直し、または、スクラムの選択肢が与えられる。

ボールが直接タッチになった場合、ボールを蹴らなかった側のチームが、以下のいずれかを選択する：

キックのやり直し

スクラム

ラインアウト

クイックスロー

蹴られたボールが、プレイヤーに触れることなく相手側のインゴールに入り、相手側のプレイヤーがそのボールを遅滞なくグラウンディングした、または、インゴールを通過してデッドとなった場合、ボールを蹴らなかった側のチームがキックのやり直しかスクラムの選択肢を与えられる。

・ 主なレフリーシグナル



スクラム



フリーキック



ペナルティ



アドバンテージ



トライ・ペナルティトライ



ノートライ



インゴールにおけるパイルアップ

【小・中学生でプレー中に起こる主な反則】

軽いもの：スクラムで再開

・**ノックオン**：ボールを前に落とす。意図的な場合はペナルティキックが相手方に与えられる。

罰：スクラム

・**スローフォワード**：ボールを前にパスする。意図的な場合は相手方にペナルティキックが与えられる。

罰：スクラム

・**ラインアウトのノットストレート**：ラインアウトの投入側は、ボールを真っ直ぐに投入しなければならない。

※小学中学年以下にはありません。

罰：スクラム



【小・中学生でプレー中に起こる主な反則】

中程度の反則：フリーキックとなるもの

・スクラムのノットストレート：スクラムへのボール投入側は、真っ直ぐに投入しなければなりません。

※小学生では発生しません。

罰：フリーキック



・ラインアウトの間隔：ラインアウトでは、ボールが投入されるまでは、相手方と1 mの間隔を保たなければなりません。※小学中学年以下では発生しません。

罰：フリーキック



【小・中学生でプレー中に起こる主な反則】

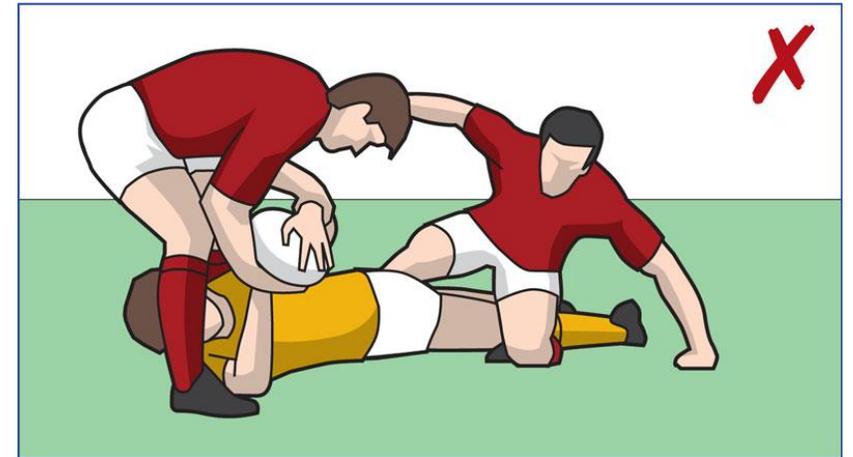
重い反則：ペナルティキックとなるもの

・「**ノット リリース ザ ボール**」：タックルされたプレイヤーは、ただちに以下のことをしなくてはならない **罰：ペナルティキック**

aボールを放す、パスする、または、前方以外の方向へ押し動かすことでボールがプレーできるようにし、プレーが継続されるようにする。どの方向にボールを置いてもよい。

bボールから離れるか、立ち上がる。

cボールの上に、または、ボールに被さって、あるいは、ボールの近くに横たわって、相手側のプレイヤーがボールを獲得するのを妨げないようにする。



【小・中学生でプレー中に起こる主な反則】

重い反則：ペナルティキックとなるもの

- ・「ノット ロール アウェイ」及び「タックラーがタックルされた選手を離さない」
タックラーは、以下のことをしなくてはならない
罰：ペナルティキック

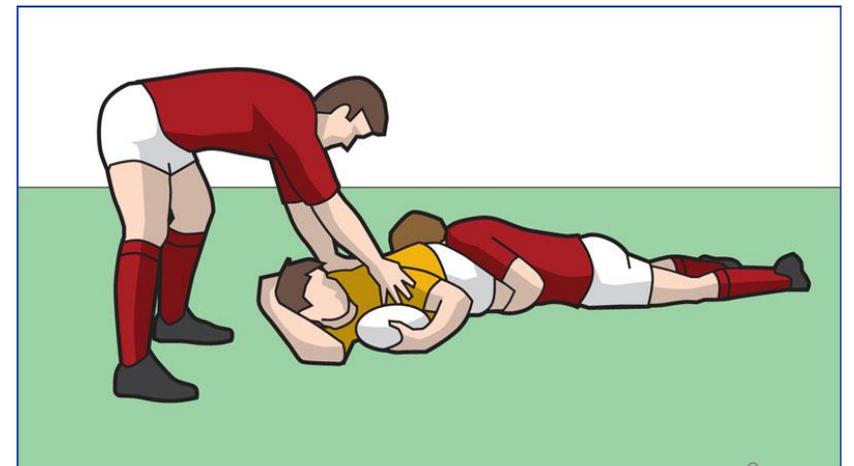
- a双方のプレーヤーが地面に倒れたら、ボールとボールキャリアーをただちに放す。
- bタックルされたプレーヤーから、また、ボールからただちに離れるか、立ち上がる。
- c立ってからボールをプレーする。
- dタックルされたプレーヤーがボールを放すかプレーできるようにする。
- eタックルされたプレーヤーがボールから離れられるようにする。



タックラーあるいはタックルされたプレーヤーのノットロールアウェイ



タックラーがタックルされたプレーヤーを離さない



【小・中学生でプレー中に起こる主な反則】

重い反則：ペナルティキックとなるもの

- ・「オーバーザトップ」及び「オフフィート」

競技は、立っているプレーヤーによってのみプレーされる。

罰：ペナルティキック

a立っていてボールを持っていないプレーヤーは、ボールの近くで地面に横たわっているプレーヤーの上に、または、そのプレーヤーに被さって倒れ込んではいけません。

bボールがないのに地面に横たわっているプレーヤーはプレーできず、以下のことをしなければなりません：

1. 地面に横たわっていない相手側に、ボールをプレーさせる、または、獲得させる
2. ボールをプレーしない
3. 相手にタックルをしたり、しようとしたりしない



故意の倒れ込み



【小・中学生でプレー中に起こる主な反則】

重い反則：ペナルティキックとなるもの

・ラック及びスクラム内での「ハンド」

ラック及びスクラム内では、手を使ってはいけません。

罰：ペナルティキック

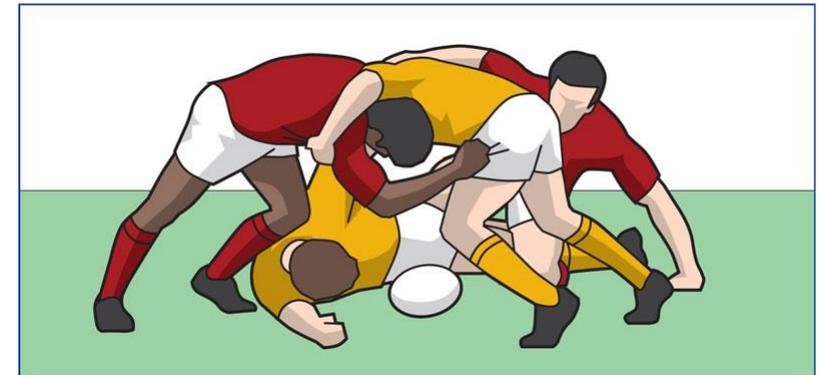
a相手チームをボールから押しよけることで、ボールが獲得できる。（相手をオーバーする）

bラックが形成されたら、いずれのプレーヤーもボールを手で扱ってはならない。ただし、ラックが形成される前に立っている状態でボールに手を置くことができた場合を除く。（ラックが形成される前のジャッカル）

cプレーヤーは、安全な方法であるならば、足でボールをプレーしてよい。



ラックまたはスクラムにおけるハンド



【小・中学生でプレー中に起こる主な反則】

重い反則：ペナルティキックとなるもの

・ラック及びモールの「オフサイド」

ラック及びモールへ参加するには、味方の最後尾から参加しなければなりません。

罰：ペナルティキック

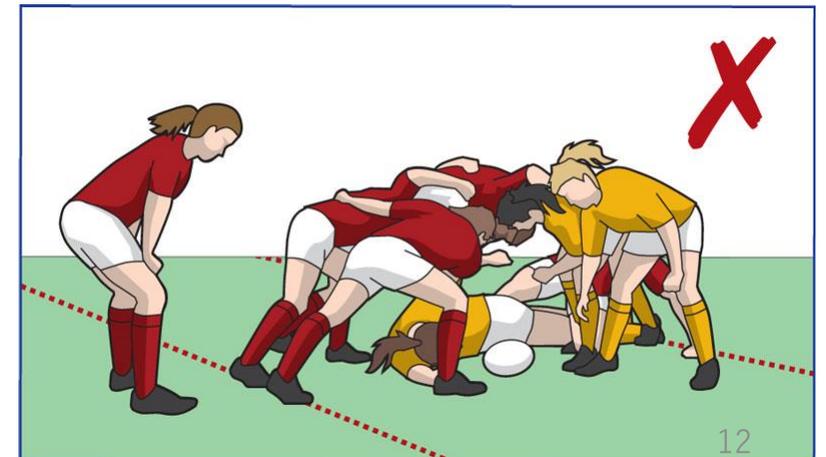
aラック（モール）に到着したプレーヤーは、立っていなければならない、自チームのオフサイドラインの後方から参加しなければならない。

bプレーヤーは、ラックに参加するか、ただちにオフサイドラインの後方へ下がらなければならない。



ラックまたはモールにおけるオフサイド

ラック、モールへ横から参加するオフサイド



【小・中学生でプレー中に起こる主な反則】

重い反則：ペナルティキックとなるもの

- ・「ハイタックル」

プレーヤーは、相手側プレーヤーに対して、早く、遅く、または、危険な形でタックルしてはならない。危険なタックルには、肩の線より上へタックルすること、または、しようとするを含むがこの限りではない。タックルが肩の線より下から入ったとしても同様である。ジャージの襟や肩の線から上の部分をつかむ行為をつかむ行為も含みます。



ハイタックル

罰：ペナルティキック

※場合によっては、シンビン（イエローカード）またはレッドカード（退場）となります。